

わ

が

街

わ

が

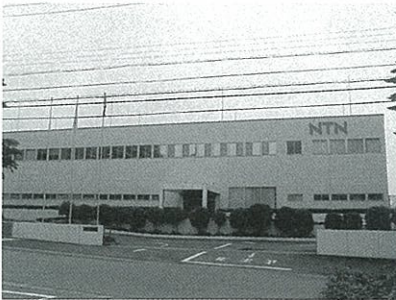
故

郷

## 株式会社NTN上伊那製作所 ～伊那谷とともに～

### 1. 株式会社NTN上伊那製作所の紹介

当社は2005年（平成17年）12月、NTN株式会社のグループ企業として、長野県上伊那郡箕輪町に誕生した新しい会社です。軸受用転動体の生産を行っており、「質（人・仕事・製品）の向上でNTNの発展に貢献する」という企業理念のもと、高精度と低コストの実現を進めながらNTN株式会社の各製作所に納入しています。



社屋外観

西側に位置しており、地質学上、西南日本に属しています。内陸側なので内陸性気候を呈していますが、雪は標高の高い地域を除いて比較的少ない地方です。

名歌「勘太郎月夜唄」♪影かやなぎか 勘太郎さんか 伊那は七谷 糸ひく煙～ のフレーズで伊那の名をご存知の方も多いのではないのでしょうか。



伊那谷

### 2. 伊那谷の紹介

当社の所在地「箕輪町」は伊那谷にあります。伊那谷（いなだに）とは、長野県南部、天竜川に沿って南北に伸びた盆地で、伊那盆地（いなぼんち）や伊那平（いなだいら）とも呼ばれます。

長野県歌「信濃の国」に登場する「四つの平」の一つで、古くは「伊奈」とも記されていました。天竜川流域に位置しており、西を木曾山脈に、東を赤石山脈に挟まれ、中央構造線よりも

### 3. 信州を満喫できる箕輪町

箕輪町は長野県のほぼ中央部に位置し、河岸段丘の典型的な地勢にあります。中部の平坦地を北から南へ天竜川が貫流し、緩傾斜の台地から西側は中央アルプス連峰、東側は南アルプス連峰に続いています。

伊那盆地を南北に縦貫する主要地方道が走り、特に中央自動車道へのアクセスが大変良く、東京方面・名古屋方面の物流基地も数多くあり、

当町北部にある伊北I.Cから車で約10分、また南の伊那I.Cからも約10分という大変好条件な地です。

諏訪湖に近く、昔から精密機械産業が盛んであり、NTN株式会社、セイコーエプソン株式会社、コア株式会社、株式会社キョウデン、株式会社テセックなどの主要工場が町内に多数あり、また隣接する市町にはオリンパス株式会社、石川島汎用機械株式会社も操業し、この風土で培った卓越した先端技術をベースとした、多数の中小企業群がこの基幹会社に技術提供し、この地域一帯は日本が誇る先端精密技術の集積地として発展しています。

近年では首都圏を中心とした先進開発型企業の進出が活発となり、産業分野の先端技術が集結しハイテクタウンへと変貌しています。平成16年度には、工業製造品出荷額は1,700億円にのぼり県内でもトップクラスの出荷額を示しています。21世紀に向け、農商工の調和と住む人々



箕輪町の全景



町の花 イワヤマツツジ

が主役のまちづくりを基本に、夢とロマンあふれる未来型環境の整備を創造している町です。

町の人口は約27千人で、町の木はケヤキ、町の花はイワヤマツツジ、町の鳥はキセキレイと豊かな自然を象徴しています。

#### 4. 風林火山の史跡「福与城」

福与城（ふくよじょう：箕輪町福与）は、創建年代は不明ですが、戦国時代に藤沢頼親の居城でした。武田信玄により攻略され、天文14年（1545年）に落城しました。天正10年（1582年）武田氏滅亡後、藤沢頼親はこの城を奪還しましたが、高遠城を奪還した保科正直に攻められ落城しました。天竜川の段丘を利用した堅固な城で、伊那谷攻略をめざす武田軍約2万人に対し、城主・藤原頼親は50日間にわたり善戦しました。



福与城址

#### 5. 桜の名所「高遠」

当社から車で40分ほどの位置に、桜で有名な高遠城址公園があります。戦乱の時代より伊那の要所であった高遠城は、武田方仁科五郎盛信と織田信忠の攻防を最後に戦乱の時代に幕を閉じました。明治に入り城は取り壊され城址公園となり、現在1,500本以上のコヒガンザクラの樹林を保護しています。古いものは樹齢百年を越えるものもあります。その花形はやや小ぶりで赤みを帯び、その可憐さと規模の大きさは「天下第一の桜」と称されるほどで、県の天然

記念物の指定を受けています。高速ではその美しさを後世に伝えるべく桜憲章を定めて保護育成に努めています。



高遠城址公園の桜

## 6. 近隣の天然記念物

当社の存する中曽根地籍にエドヒガンザクラの大樹があります。その下に小さな祝殿があり、権現様が祀られていることから権現桜とも呼ばれ、古くより親しまれています。

樹齢およそ千年といわれ、樹高約15m、根元周囲6.7m、地上1.3mのところできく東と西に分かれており、それより上はさらに枝を10mから15m四方に張っています。花期は例年4月25日頃で、普通のヒガンザクラより3日ほど遅く開花します。花色は白味が多く、花は吉野桜より大きく満開時の眺めは格別です。

中曽根地区ではこれを「めおと桜」とも呼んでいます。二本に分岐しているだけでなく、一方の花は赤く他は白く咲くというのでこの名前が付いているようですが、花色の相違は開花期のずれで、西の方に出た幹の方が2～3日早めに咲くため白く感ずるのであって、この原因は日当たり、風当たり、樹幹内部の腐朽状態などの違いによるものと思われます。

この木は県内有数の巨木で樹姿がよく整い、樹勢も盛んで県内では数少ない名木の一つであり、昭和42年5月22日長野県天然記念物に指定されました。



中曽根のエドヒガンザクラ

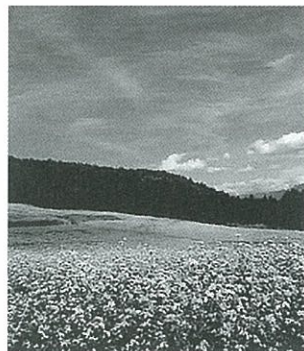
## 7. 美しき食文化

日本のそばの花は白色ですが、そばの原産地の雲南省からヒマラヤにかけては、ピンクや赤色のそばがあります。

1987年に、ヒマラヤの標高3,800mのところから赤い花の咲くそばを日本に持ち帰り、信州大学の氏原暉男教授（現 名誉教授）がタカノ株式会社（宮田村）と共同で品種改良を行って真紅の花を作り、高嶺ルビーと名付けました。

このそばは花を楽しむばかりではなく、味も良いので、まさに見て楽しみ味わうといったところでしょうか。（ただし、そばは赤くありませんので悪しからず。）

赤そばの開花は9月中旬から10月初旬までで、その時期に赤そばの里は一面のピンクに覆われます。南アルプスのパノラマを背景に見る赤そばの絨毯は圧巻です。



赤そば 高嶺ルビー

## ※高嶺ルビー

品種登録 3347号

品種登録者 「タカノ株式会社

(上伊那郡宮田村)」

「氏原暉男(信州大学名誉教授)」

## 8. 身近な高原

箕輪町の東山、標高1,200mの位置に、伊那谷を一望できる萱野高原があります。真夏でもひんやりとした清涼感を味わえる身近な高原です。対面の中央アルプスを眺めながら遊歩道を歩けば、四季折々の草花や小鳥のさえずりに心が洗われる気分です。なかでも1,000株を超える水芭蕉の群生は、きっと感動を与えてくれることでしょう。



萱野高原の水芭蕉

## 9. 町の文化財

○国重要文化財 無量寺阿弥陀如来座像

胎内背部に平安時代の様式、書体で記された寄進者の名があります。藤原姓が多いのは、この付近一帯が藤原氏と関係の深い路原庄と呼ばれる荘園であったからと思われる。この期の作例に比べて材が厚手で、総体に彫り口が強いのが特徴です。



無量寺阿弥陀如来座像

制作年代：平安時代後期

作者：僧覚有・永範

品質：ヒノキ材 寄木造 漆箔 彫眼

像高：113.3cm

膝高：94.5cm

○県選択無形文化財 古田人形

江戸中期より上古田に伝えられる操り人形であり、その発祥は箕輪古田神社に対する風除祈願や旱魃(かんばつ)回避に奉納されたものです。それが娯楽的要素を持ち、さらに淡路の人形遣い市村六三郎らによって技術的指導がなされました。

現在は保存会、中学校のクラブにより活動が続けられています。

発祥年代：江戸時代中期(享保年間)

伊那谷の爽やかな空気、美しき山々と色鮮やかな花々、心を癒してくれる溪流のせせらぎ。この大自然が後世まで永遠に続くよう、NTN上伊那製作所は地球環境保護と地域社会に貢献し、地域社会とともに発展していく企業を目指してまいります。

( 株式会社NTN上伊那製作所  
管理部 武井 勝利 )